

第 36 回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザーボード 議事要旨

1 日 時 : 令和 4 年 12 月 13 日 (火) 9:45~11:25

2 場 所 : 総務省 10 階 1003 会議室
千代田区霞が関 2-1-2 中央合同庁舎第 2 号館

3 出席者 : (委員)

- ◎黒沢 文貴 (東京女子大学名誉教授)
- 戸谷 好秀 (一般財団法人日本統計協会理事長)
- 兼川 真紀 (弁護士)
- 亀井 昭宏 (早稲田大学名誉教授)
- 斎藤 靖二 (神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館長)
- 名越 健郎 (拓殖大学特任教授)

[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

(総務省)

- 河合 暁 官房審議官
- 加藤 剛 大臣官房総務課管理室長
- 米澤 俊介 次世代継承研究官

4 議事次第

- ・平和祈念展示資料館運営管理業務に係る一般競争入札(総合評価)の提案書の評価(審査)について

5 議事要旨

平和祈念展示資料館運営管理業務に係る一般競争入札(総合評価)の提案書の評価(審査)ポイント等について、事務局より説明。

その後、提案書について応札者からプレゼンテーションがあり、質疑応答が行われた。

委員の主な発言は次のとおり。

- 近年の資料館や博物館では展示方法などが大変進化しているが、今回の提案中、進化した、最先端なものはどこに表れているとお考えか。
- 限られた予算の中で、いろいろ新しいことをすると費用がかかる。どこかで節約しないと、新規事業に回す予算がなくなるのではないか。

- 従来の展開になかったようなタイアップ、コンテンツ開発、展示技術などの新しいアイデアを生み出していただくことで、新しい館の在り方がより明確に出てくるのではないか。

- これまでの三労苦を伝える展示に、労苦体験をされた人たちの生きる希望というものは何だったのかという点の発信が加わると、こどもたちも見やすいのではないか。

- 今後、関連施設からだけでなく、もっと広いネットワークの構築が望まれているように思うが、その点も見据えて連携事業を発展させていただきたい。

- コロナ禍以降、地方の関連施設でも来館者激減という状況があるのだろうか。

- 展示内容については、ソ連がなぜ収容所を設けたかといった問題に目を向ける最新の研究を活かすなど、アップデートしてもよいのではないか。これまでの経緯や展示にとらわれていると発展がないのではないか。

- 関係者の労苦を中心に展示をとという人は少なくなっており、ある程度全体的に捉えて歴史の教訓のような観点からの展示を行う方に行くのかもしれないが、今すぐ変えることまでは何とも言えない。

- 今の人々は今の解釈で歴史を見ているので、今の人々に来ていただくなら、最新の研究を踏まえた要素も入れていかないといけないだろう。

（ 本議事要旨は、総務省大臣官房総務課管理室において作成した。
速報版であり、今後、修正する場合がある。 ）